

札幌市の普通救命講習を スタッフが受講しました

ご入居者様の安全を守り、信頼を得るため、スタッフは定期的に職員合同研修会を行っています。第4回となる5月25日（金）の研修会では、財団法人札幌市防災協会から講師2名を招いて、13名のスタッフが3時間の普通救命講習を受けました。

講習の内容は、心肺蘇生法や止血法、AED（自動体外式除細動器）の使い方など。人



形を使いながらの実践的な指導に、スタッフは緊張の面持ちで望みましたが、修了後は「一度体験しておけば、いざというときに役立つ」と心強い感想も聞かれました。生存率を上げ



る救命処置として、札幌市はAEDの設置を推進しています。使い方をあらかじめ理解していれば、もしものときにも迅速に行動できることでしょう。アウルにもAEDは設置されています。

●救命講習の詳細は札幌市防災協会のホームページをご覧ください。http://www.119.or.jp

スタッフ リレーエッセー

お菓子箱の思い出

副施設長 斎藤 淳

介護保険制度が始まった頃は、訪問介護に携わっていました。毎週、ある男性のお宅を訪問しては、汗をかきながら、1時間いっぱいの入浴介助や更衣、シーツ交換、水分補給をしていました。そこのお宅の作業場は、たくさんの化粧箱があって、お嫁さんは一つずつ丁寧に箱を組立てる仕事をしていました。

「もりもとの箱はしっかり作らないと……」。箱は1ミリのズレでも返品されるそうです。もりもとのロゴを見ると、いつもあの頃を思い出します。どんな仕事も、あの箱づくりのように気持ちを込めて丁寧さを心がけることが大切だと思います。「アウル」つながりですが、もりもとの「北ふく郎サブレ」は、



▲もりもとの店頭にて。右が斎藤。

甘いバター風味で食べごたえがあり、また売上げの一部が道新の野生生物基金（特にシマフクロウの保護）に寄付されるというお勧めのお菓子です。

コンセプトブック、 無料で差し上げています

「アウルコート真駒内」の詳しい内容がわかるコンセプトブック。ご希望の方は、下記までご請求ください。



●介護付有料老人ホーム（一般型特定施設入居者生活介護）

アウルコート真駒内

〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3
TEL.011-588-1122 FAX.011-588-1133

- 交通機関
- 地下鉄南北線「真駒内」駅下車
 - じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗り（約5分）「南町4丁目」停下車（徒歩約4分）

<http://www.owlcourt.jp>



ふくろうの家 その3 2007年7月 だより

●発行／株式会社私の青い空
●編集／アウルコート真駒内広報室 〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3 ☎011-588-1122



「アウルコートスタイルを目指して」—アウルコートの暮らしが始まりました—

ライフマザー（施設長） 武田 ひろみ

春のうららかな光があふれる4月、「アウルコート真駒内」での暮らしが静かに始まりました。そして、初めての夏を迎えようとしています。

中庭の青々とした芝生を眺めながら、気持ちは3年前にタイムスリップしていました。当時の新聞で、「エレガントな老後」を目指すフィリップ・グロード氏（函館「旭ヶ岡の家」理事長）が、「人は年をとっても五感は衰えない。無駄なストレスがなく、爽快感を保てば、認知症の症状さえ抑えることができる」と、老年期を人生最高のバカンスとして過ごす提案をされており、氏の実践に強く共感しました。私たちの施設づくりの構想はこの頃から始まっており、どのようなホームを目指すのか思い悩んでいたときに出会った、まさに師の声でした。

施設ではなく住まいとしてのホーム、キーワード

は自然や音楽や食事、ケアの基本にあるのは温かなもてなしの心。その中で、入居される方の好奇心や教養、生きる力をお守りしたい。そんな数々の思いを込めて、今年2月建物が完成し、4月入居者様をお迎えしました。

朝、キッチンオープンカウンターからは、食欲をそそる香りが流れ、「今日のメニューはなに？」という会話が聞こえてきます。10時にはラジオ体操の音楽と笑い声、午後からは買い物ツアーの車が出かけて行きます。15時にはティータイム。「アウルの畑の枝豆が豊作だったら、中庭でビールパーティーをしましょう」という提案も出てきました。

こうした毎日の積み重ねを楽しみ大切にしながら、職員と入居者様とともに、アウルコートスタイルを創り上げていきたいと考えています。

アウルを設計した 遠藤さんとゲスト出演

「アウルコート真駒内」は、設計を担当した建築家の遠藤謙一良さんに、代表取締役の武田治信とライフマザー（施設長）の武田ひろみが抱いていたコンセプトを伝え、具体的なかたちにしてもらう作業を経て生まれました。本来は、一般の家づくりでも建築家が住まう家族の構成やライフスタイルを把握した上で設計すべきなのですが、実際には建築家を交えてマイホームを建てる人

はそう多くはありません。

建築家の存在と役割を広く知ってもらうための活動が続けている建築家プラザLiv（主催 飯田宣充氏）が主催して、5月19日（土）・20日（日）にサッポロファクトリー・アトリウムで「Liv 建築家〜ニバル2007」というイベントが開催されました。講演や体験講座、コンサートなど多彩なプログラムのひとつとして、ライフマザーの武田に出演依頼の声がかかりました。



大勢の来場者の前で コンセプトをアピール

出演したのは遠藤さんと対談するステージイベント。「考えられたケアにある心の住居」と題し、アウルの基本テーマである「旅するように暮らしたい」というコンセプトがどのようなかたちの建物になったのかを、実

際の映像を交えながら40分ほど説明しました。

看板をつけない隠れ家的外観、多数で集う楽しさと個人の生活空間の尊重を両立させる設計、さらに癒し課の同居犬がいて、テーマソングも持

「Liv 建築家〜ニバル2007」に ライフマザーがゲスト出演



つアウルは、介護付有料老人ホームであることを感じさせないユニークな存在。その魅力をアトリウムに集まった来場者に向けて、じっくりとアピールすることができました。

建築家も注目の「アウルコート真駒内」



食事もティータイムも 楽しいひととき

ご入居者様をお迎えして、4月からスタートしたアウル暮らし。6月には建物周辺の植栽が完成しました。晴天が続く中で、エントランスや中庭、温室の樹木は緑色を濃くし、夏の訪れを知らせてくれています。

ゆったりとした時間の流れている日々の生活で、みなさんに評判なのが食事。オープンキッチンでつくられるため、調理中はカ



レーのスパイスの香りや焼けたグラタンの香ばしさといったおいしそうなにおいが館内に満ちます。

視覚と味覚はもちろん、嗅覚でも食事が楽しめ、できたてをすぐに食べられるオープンキッチンの利点を生かし、5月29日（火）には昼食に手打ちそばを提供しました。粉からつくった打ち立てのそばは「コシがあって美味しい」と大好評。秋には自分の打ったそばを食べるそば打ち体験も計画しています。

三度三度の食事と昼下りのティータイム。レストランではご入居されている方も、スタッフも一緒にくつろぎ、楽しいひとときを過ごしています。

リニューアルしたウェブサイトで アウルのをあれこれを発信中

オープン前から公開していた「アウルコート真駒内」のウェブサイトが6月にリニューアルし、日々のニュースやトピックなどをお知らせするページができました。スタッフが書き込むブログでは、検討を重ねながら実践しているケアの様子や日々の出来事を、こまめに更新していく予定です。

『ふくろうの家だより』ではお伝えしきれないアウルでの暮らしのようすや最新情報などの発信は、新しくなったウェブサイトが担いますので、定期的に閲覧していただけますようお願いいたします。

<http://www.owlcourt.jp>

